

深いやけど痕 手術検討を

形成外科

今回の「病院の実力」で取り上げた形成外科は様々な病气やけがを扱う。そのうち、やけどなどによる皮膚の「引きつれ」と顔面骨折の治療について、大阪医科大学（高槻市）の上田晃一教授に聞いた。（山崎光祥）

大阪医科大学 上田 晃一教授



「引きつれのある場所に「Z」の切れ込みを入れる手術法は形成外科で最も基本的な手技です」と話す上田教授（大阪医科大学）

病院の実力

* 大阪編 111

「引きつれ」とは、やけどや外傷の痕が少しずつ縮み、周辺の皮膚を引っ張り込んだ状態をいいます。できる場所によっては、口やまぶたの開閉、指の曲げ伸ばしが難しくなるなどの機能障害、運動障害が生じます。子どもの場合、指などの関節が曲がり、そのまま放置すると成長が阻害

「どう治療しますか。軽度のものには薬を使ったり、スポンジで圧迫したりします。機能障害の強いものに対しては最も基本的な手術として皮膚に「Z」の形の切り込みを入れ、三皮片の位置を入れ替える方法があり、引きつれが広範囲に広がると、やけどの痕は高まります。やけどの痕は皮膚科でも治療しますが、深ければ形成外科で手術を検討する必要があります。」

「見分け方は。浅いやけどは薬を塗って2週間もたれば皮膚が再生してきます。しかし、1〜2か月たっても治らず、シクシクした状態が続くようなら深い可能性があります。最も多い顔面骨折は、けんかや、スポーツなどで鼻の骨が折れて曲がる鼻骨骨折です。1か月以上放置すると手術が大がかりになるので、早めに形を整えたい方がいいでしょう。開業医で行われる一般的なレントゲン撮影では見落とされる恐れがあります。鼻の形が歪む時は、形成外科で撮影してもらってください。」

診療科間の連携重要

「次に多いものは、形成外科は、何らかの原因で損傷した体の一部を修復することで、見た目や機能的改善を図り、患者の生活の質の向上を目指す診療科だ。対象は、全身やけどの救急治療、口唇裂・口蓋裂など先天的な病気の治療、さまざまなアザに対するレーザー治療など多岐にわたる、ほかの診療科との連携

「頬の出っ張った部分が陥没する「頬骨骨折」です。痛みはたいない数日で治まるので気がない人もいますが、口が開きにくくなったり、顔の表情が左右非対称になったりもします。どんな場合に手術が必要ですか。折れた骨の位置がずれた場合は、元に戻して固定します。最近はまだ元の裏など目立たない場所に最小限の切れ込みを入れ、超音波画像を見ながら形を整え、幅1.5ミリか1ミリのチタン製プレートで固定する手法が広がっています。顔を切るの怖いと思われがちですが、治療成績は格段に上がっています。」

病院の実力「形成外科」

医療機関別2016年治療実績 (読売新聞調べ)

医療機関名	手術件数	やけどなど(件)	顔面骨折(件)	手足の再建(件)
大阪府				
大阪市立総合医療セ	587	63	27	97
近畿大	559	68	105	115
大阪医大	406	49	53	32
府立母子保健総合医療セ	399	12	—	13
関西電力	392	6	16	280
府立急性期・総合医療セ	386	61	21	64
関西医大	347	45	55	28
ナグモクリニック	325	—	—	—
関西医大総合医療セ	315	35	24	20
済生会中津	312	41	72	47
市立池田	311	10	21	—
大阪警察	310	60	28	25
八尾市立	302	28	5	244
大阪市大	275	57	30	42
大阪労災	271	24	18	113
淀川キリスト教	226	34	31	8
守口敏仁会	212	13	34	16
住友	210	13	20	22
りんくう医療セ	206	38	24	54
済生会野江	198	22	30	101
大阪国際がんセ	194	5	0	16
多根総合	153	28	61	0
城山	149	25	52	17
済生会吹田	127	27	23	7
大阪赤十字	124	17	22	5
地・大阪	124	16	12	20
市立岸和田市民	114	51	12	0
市立貝塚	114	10	4	4
馬場記念	108	13	44	4
箕面市立	105	13	11	1
市立東大阪医療セ	98	13	7	0
医誠会	97	12	10	28
ベルランド総合	99	6	14	0
高槻赤十字	75	11	37	43
大阪回生	70	12	14	25
八尾徳洲会総合	67	4	12	2
PL	61	4	21	0
清恵会	56	8	20	0

「地・」は地域医療機能推進機構、「セ」はセンター。「—」は無回答または不明。
* 全国の調査結果は「くらし健康・医療面」に掲載しています。

「が特に重要になる。手術では、顕微鏡をのぞきながら、わずかな数ミリの太さの神経や血管を細い針で縫い合わせる「マイクログサージャリー」などレベルの高い技法が使われている。また、乳がんの全摘手術後の乳房再建については、2013年に人工乳房が保険適用されたため、広く行われるようになった。読売新聞は2〜3月、日本形成外科学会の認定・教育関連施設と大学病院など

全国の主立った医療機関にアンケートを実施し、2016年の1年間の治療実績を尋ねた。一覧表は、「手術件数(局所麻酔を除く)」「やけどの傷痕(引きつれなどの手術件数)」「顔面骨折の手術件数」「手足の再建手術件数」を掲載した。同学会のホームページ(<http://www.jsprs.or.jp/>)では、形成外科が担当する病气と治療法の解説、専門医の名簿などを掲載している。